

らぶ

宇和特別支援学校 人権・同和教育課

〔PTA 人権・同和教育研修会〕

7 月 5 日(金)の P T A 人権・同和教育研修会では、保護者の皆様には、たいへん暑い中、御多用中、多数御参加いただき、本当にありがとうございました。先生方には人権・同和教育視点に立った授業を展開していただき、講演会では松葉学園の川中施設長さんにとっても有意義な内容をお話していただきました。以下、研修会の報告です。

アンケート結果の報告（同様の内容はまとめさせていただきました。御了承下さい。）

- 1 5 時間目の授業を見られて、どのように思われましたか？ また、子どもさんの様子は、どのようでしたか？（不参加の方は、指導案を見られた感想などを御記入ください。）
 - ・子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた取り組みを参観させていただきありがたく思います。
 - ・先生との約束を守って、みんなで楽しく授業をしていました。友達の様子をよく見てゲームを理解しながら喜んでルールの大切さを学んでいました。
 - ・最後まで何とか作業し、作品を完成させたので良かったです。小学校では、計算や国語の漢字、パソコン等の授業を見ていたのでそういう授業も見たいと思いました。
 - ・相手の立場になって話すことは、むずかしく思いますが、子ども達が自分なりに考えて発表していたので感心しました。人前で発表することは難しいのによく頑張っていたと思います。
 - ・季節にあった行事を中心に授業があるのは子ども達の興味も湧き、いい授業だったのでは。
 - ・教師の穏やかな表情や態度に生徒たちも落ち着いて授業に取り組めていたと思います。ただもう少し人権・同和教育視点に立った授業内容が展開されるとよかったと思います。一人一人を大切にするとはい？一人一人を生かすとは？など教師は日々の関わりの中で常に一人一人の課題をしっかりと明確にしておくことが大切なのではないかと思いました。人権・同和教育は特別なものではなく、日々の丁寧な取組そのものが、人権・同和教育につながるものと思います。
 - ・クラスメイトの良いところを発表するのはいいと思う。友達への理解を深め、みんな一人一人違っているということに気付くことができたと思いました。いい授業でした。
 - ・自分がされて嫌なことは、人にもしないようにしようという内容で、嫌な事をされたらどういう気分になるか、嬉しいことをされるとどういう気分になるかという事を顔の表情のカードを使って説明してくださっていたのはとても良かったと思います。
- 2 川中 和史氏のお話を聞かれて、どのように思われましたか？ 御意見、御感想お聞かせください。
 - ・ありのままを受け入れて、一人一人の声を聞いてもらっているなあと講演を聞きながら、改めて感じました。施設の様子を詳しく説明してくださって良く分かりました。
 - ・川中園長さんが、障害者、児のために日々頑張っておられる事、これから取り組んでいこうとしていることがよく分かってとても良かったです。これからも引き続き利用していきたいです。
 - ・どの年代の方の利用相談にも対応出来るというのが、素晴らしいと思います。
 - ・卒業後の進路について教えていただきとても参考になりました。
 - ・保護者の意見も聞いてくれるのですごくいいです。
 - ・施設長様の障害者に対する思いが熱く、一人を大事にして、いかにその人の立場にたって要望に応えるか、それをスタッフに教育するにも、すごく情熱を感じました。
 - ・具体的に、実際あった話をされたので、参考になり良かったです。
 - ・今のグループホームは、個人に合わせて充実しているなあと思いました。・将来の自立に向けて、色々な情報を知ることができ、大変勉強になりました。
 - ・もっともっとお話を聞かせていただきたいと思います。積極的に色々なことを取り入れていただき、利用者の目線で考えてくださっているのが伝わってきます。また若手職員さん等の育成も良い例を全員に話すなどして、伸ばしていく様で、施設の雰囲気も良いだろうと想像されます。ありがとうございました。
 - ・施設利用の際は、表面の形式ばかりでなく、「職員の方たちの対応や思い」もとても重要であると改めて感じました。
 - ・今更のように親が亡くなった時のことを考えておかななくてはならないなと思いました。本人の気持ちにそった対応のできる所を探して行きたいと思いました。

<教職員>

- ・「ふつうの生活をふつうに」ということを、学校でも忘れないで子どもたちに接したいと思った。障害があるから、こんなもの・・・と思わないようにしたい。
- ・「生涯サポート」実現のため、利用者の願いを知ってサポートするという「意思決定の支援」が大切だということは、我々教職員にも通じるとだと思ふ。大変参考になるお話だった。
- ・障害のある人々にとって「普通に暮らす」ことはどういうことか、勉強になった。相手の気持ちに立つことはなかなか難しいが、努力していきたい。生徒達の卒業後の進路について、今の日本ではなかなか理想には届きそうにないが、少しずつその努力をされている人、団体、施設があることは心強い。しかし、生きたいように生きるためには、お金がかかるということも保護者にとって切実な問題としてあることを知った。

3 今後、PTA人権・同和教育研修会で取り上げてほしいテーマについて御記入ください。

- ・障害のある子どもの兄弟姉妹がどう思い、どう考えているか、ぜひ聴きたいと思います。
- ・進路と結び付けていく内容が望ましいと思う。「地域に根ざした自立」が大切だと思います。
- ・大洲、八幡浜地区の知的障害者の方の施設などあれば、取り上げていただきたい。
- ・保護者による体験発表などでもよいのではないのでしょうか？
- ・人間は平等であること、皆違って皆いいという思い、それぞれみんな違ってみんなが大事だということ。

講演会報告「一人一人が地域に根差し、自立するために」(14:15~15:15 体育館)

講師：松葉学園施設長 川中 和史氏

「ありのままにその人らしく暮らせるように」という松葉学園のテーマに基づき、自立を目指した事業、活動内容、支援について、1時間余りの御講演をいただいた。

<講演内容(概要)*詳細内容をご希望の方は、担任を通じて係までお知らせください。>

松葉学園が手がけている事業は、入所、短期入所、日中一時支援、グループホーム、就労継続、児童通所支援である。入所の方などの日中活動は、木工作業、農作業、まり制作の部品やクラッカーなどの委託作業、空き缶つぶしなどである。グループホームの方は就職していることが前提であり、就労継続の方にもできるだけ外の仕事に付けるようサポートしている。今年、児童発達支援事業も始めた。法律が色々変わり、サービスが分かりにくいことがあるが、現在サービス利用の際には、相談支援事業所を通して利用することになっている。将来においては、「生涯サポート」を目指しており、人生の最後まで利用していただけるようにしていきたい。色々な年代の方がいることになっているが、小さい子が来るようになってからは、入所の方の顔も嬉しそうであり、いいことだと感じている。



入所利用の方の生活の様子としては、できるだけ個人の生活を大切にすることで、居室、入浴などの個別化、食事時間などの個人設定、出掛けの際の個人の希望の優先などを行い、その人らしい生活をサポートしている。グループホームの利用者さんにも、できるだけ「普通の暮らし」を体験してほしいと思う。社会に男女がいるということが普通なので、男女一緒のホームもある。

障害のある人たちの「生涯サポート」をしていく上で、やはり大切なことは人権の尊重であると思う。関わり方として、言葉遣いなどに気を付けるようなことも考えられるが、「愛の無いかかわりはしないように」と職員には言っている。また、問題行動が起きたときなどにも、結果だけを見て良い悪いを判断して指導するのではなく、まずは「なぜか？」という原因や気持ちを察することのできる配慮が必要であり、その積み重ねの信頼関係が大事であると考えている。3つ目として意思決定の支援をすることが大切である。障害の重い人については、職員の推測で決めていたところがあったが、もう少し本人の意思を引き出すようにしたいと思っている。

施設には、地域の核になったりサポーターの養成をしたりという役割があると思うが、規模の大きな施設は、グループホームくらいの単位にしてほしい。

「普通の生活」ってなんだろうということを考えてほしい(配布資料「ノーマライゼーションの詩」より)。年金などお金の課題もあるが、各年代に応じた「普通」の生活を送れるよう、「生涯サポート」を目指し取り組んでいきたい。

アンケートの結果、講演の内容とこれから考えていくべき内容がたくさんありました。今後、できることから一歩ずつ、子どもたちと関わる中で、活かしていけたらと思います。たくさんの方にアンケートの御協力をいただき、ありがとうございました。

1 施設のトピックスから

南予福祉施設会のバレーボール大会で、松葉学園が優勝した。愛媛県大会でも優勝した。次に四国大会でも優勝をねらっている。男子のソフトは優勝にはならなかったが、スポーツはいいなあと思った。スポーツを通して、「いっしょ」になれたり、勝とうとする熱いものを持てたりする。負けたら思いっきり悔しがる、それが来年への意欲になるだろうと職員と言っている。本日は、自立ということを中心に話したい。

2 施設の概要

「ありのままにその人らしく暮らせるように（５年先、１０年先を見据えた支援とは～本人の願いに基づいて～）」が、松葉学園のテーマである。障害があろうが、なかろうがその人らしく生きることが大事であり、松葉の職員が意識していることである。

平成 16 年に旧松葉学園（平成 3 年から聾唖児施設から知的障害者施設に変更）から移転した。今の松葉学園の「売り」は、どの年代の方も利用できること。ニーズに合わせて、就労、入所、療育など種類でバラバラにあることが多いが、「コンパクトにしよう」というコンセプトで、どの年代の方が来られても相談を受けられるようにしようと事業を展開している。今年でほぼそろったと思う。

3 各事業について

法律が５年ごとくらいでころころ変わっていて対応していかなければならないこともあり、各事業の説明が難しいので、相談があった場合の説明は専門のものがするようにしている。入所、生活介護、短期入所、日中一時、共同生活援助（グループホーム）、就労継続（いっとき館）、児童通所支援事業（ぽのぽの）がある。就労移行事業もあったが、２年制限があることもあり、人が集まらずやめた（相談があればやる）。

「ぽのぽの」は今年度からの事業で、昨年度まではタイムケアと言い、西予市の事業であったものが、今年度から国の事業になった。伴って児童発達支援事業も始めた。あけぼの園さんのように、専門の勉強をして発達を促す。保育所等支援もあり。保育所に伺ってお手伝いする、学校でもＯＫ。愛媛で初めてである。保育所は、なかなか外部からの支援を受け入れにくい。同じ法人でも入りにくい。少しずつ入ってきて、現在お試し期間中である。

障害者支援施設「希望の森」も同じ法人としてある。知的障害者支援施設として３０年立ち、こちらの方が歴史が古い。入所支援（４０名）、生活介護（５０名）短期入所支援（５名）日中一時支援がある。特長として、相談支援事業所があることである。昨年からは、サービスを受けたい場合、必ず相談支援事業を通しなさい、ということになった。

4 日中活動の説明

入所している大人の方の活動について。木工作業では、明間で毬作りをしておられるところがあり、その中身が木製なので、松葉でしてほしいということになった。毬は一つ 4500 円（東京の高島屋）であるようだが、木製の中身は、一つ 50 円で請け負う。野菜作りも土手側で行っている。畑作業は、みんな落ち着く。自閉症の人など、中の作業より外の方が落ち着く。行方不明の人がいたが、よく考えてみると、しばらく外に出ていなかった。農業はいいなあと思う。クラッカーの袋詰めもしている。

通所の方の作業内容について。空き缶つぶしをしている。工賃について、平均工賃 12000 円～13000 円であるが、松葉では 22000 円である。生活介護（入所）では出せないで 3000 円。

5 グループホームについて

現在 7 か所ある。５人グループで構成している。長崎の老人ホーム家事があってから、消防法が厳しくなっていて、何度もチェックに来るなど立てる際に課題があるが、増やしていきたい。基本的には働いていることが条件である。入所に比べ、自己負担が多いので、年金だけでは難しい。希望の森の下にも一昨年建った。

ケアホームについて。福祉サービスを受けたいという場合、１８歳以上になると区分を受けなければいけない。障害者区分は 6 区分。ケアホームは、重い人、Ⅱ以上の人が入る。Ⅳ以上の方が 8 割以上だとスプリングラを付けなければならないなど規定が厳しい。

グループホームでの生活について。グループホームの様子（写真で説明）。サウンドピアのオーナーが宇和の人で、出会いがあり、３棟は社長が立ててもらった。

6 就労継続B型について

ひまわりの郷、コホラ、きららなど各事業所でいいところがある。松葉では園内で作業しないように、と言っている。人の中で仕事することが大事だと考えている。8割の人が外で働いている。厳しいことも言われているが、励ましている。2名昨年就職した。就職しているものはこれまで20名関わって、4名。

市立病院の売店を経営している。が、なかなか売れない。月4万程度の売り上げである。新病院の売店にも名乗りを上げているが、コンビニにして欲しいと言われている。コンビニにするともう少し売れるかなと思う。西予市に、国道に向けて作ってほしいと条件を出した。それができれば、ローソンでも、サンクスでも話付けてこようと思っていたが、結局、病院の中で設置となった。結局ヤマサキショップになり、24時間は難しいので、365日営業にしようと思う。入札には、ライバルがあるので、この子たちの仕事先のためにも、機会があれば、市長にお願いしてほしい。

7 放課後等デイサービス等について

たくさんの利用者さんに来ていただいている。放課後、宇和特使支だけでなく、各小中学校にもお迎えに行っている。長期休業中は送迎は難しい。だんだん利用者が増えている。定員10名で始めたが、希望が多く足りないので、夏休みには15名にする。定員の150%までOKという法律のカッコ書きを利用する。内容については、スタッフがゲーム等の企画を考えている。動物園などへのドライブも行っている。子ども達が来るようになり、何が変わったかと言うと、初めはうるさいかなあと思ったが、入所の大人の利用者さんの顔が変わってきた。関わって喜んでいる。職員と一緒に関わっている。特に療育が始まると、入りたくてしょうがない。6歳までの小さな子が、かわいくてしょうがない。やはり、色んな年代の方がおられるのがいいなと思う。

児童発達支援「ぼのぼの」では、就学前の子どもたちが、興味のあること、楽しめることを大切にしながら、成長や発達が促せるような支援・療育を提供している。月～金、午前中。周辺地域に療育の場があるので、なかなか人数は集まっていない。現在、京都に勉強に行くなど研修を行っている。今後、増えてほしい。

8 入所施設の生活の様子

特長はユニット型である。7, 8人で一つのユニットにしている。朝食も夕食もユニットでとる。昔は大食堂で食事をとっていた。サラリーマンをやめて就職した時には、本当は遅く食べたい人もいるのでは、と思った。今は自由にしてもらっている。一番良かったことは、トラブルが少なくなったこと。おかずは食堂で作るが、ご飯を炊いたり、お茶を沸かしたりなど、できることは自分でしてもらっている。希望によっては調理もできる。

入浴についても、各ユニットで一人ずつ。大浴場もあるが、入る人はいない。個人の生活空間は完全個室。当時の園長が完全個室をしたいと県に計画を持っていくと、「なぜ？」と言われたようだが、現在、半分開の施設が個室化になっている。

ユニットの特色は人数が少ないこと。生活リズムは自分で作るようにしている。また、団体行動は極力しない。本人の行きたいところに行ってもらう。それで、職員の手が足りない時には、自分でヘルパーさんを雇って行くようにしてもらう。「東京に行きたい」人がいて、移動支援を使って行ってもらった。家具もほとんど自分で選んで自分で使う。お金はいるが、本人は満足している。そこにも「ありのまま」でいたい、その人らしくしたいという願いが現れるかと思う。

9 利用者の願い、家族の思い

「自分らしく」生活することと、保護者さんの提案することとのずれが出てくる場合がある。施設で調整役をしなければならない。その人の力を発揮できる暮らしを考えて・・・昔は、どこかへ行く時は一緒、のやり方だった。現在、一人一人のニーズに合わせた動きをしようとがんばっているが、お金の関係でぎりぎりのところがある。

「元気でいるかな」「どうしているかな」と本人の帰宅の願いがあっても、なかなか家に帰れない場合がある。いなくなるというケースには、家に帰りたいことが。「帰らないで」という家に帰省はさせられないが、願いは保護者に伝えるようにする。

10 入所について

待機者多い。現在30名。ということは、30名いなくなると入れない。なので入所希望の方は、早くと思われるようなら、複数施設に希望を出すようにしたほうが良い。昔に比べ、ものすごい差というも

のではない。特に職員の質は、南予は自信をもっていい施設ばかりだと思う。

11 人権を尊重する支援について

「生涯サポート」実現のために、システム作りを行っている。息を引き取る最後までサービスを使ってもらおうということ。その場合、大事なことは、やはり人権の尊重であろう。虐待防止法が始まったが、虐待とは、何か？「呼びつけ」もその一つと言われているが、色々な場面があり、すべてダメか、ということではないように思う。しかし、職員には愛のない関わりだけはするなと言っている。感情だけで関わるのはしないように、プロなんだから、と。そこをやってしまっていると厳しく注意する。人間なので、そうもいかない時もあるが、そこをコントロールしなさいと言っている。

次に、信頼関係が大事だと思う。ある若い支援員の話。利用者さんが、お金を持たず、いなくなった。1時間くらい探した。フジで買い物かごにお菓子を入れ、嬉しそうに立っていて見つけた。「ほんとになにをしていたんだ」と否定的な言葉を言いそうになった時に、一緒に探していた若い支援員が「お菓子、食べたかったの!？」と言った。その利用者さんが、いつも何がしたいのか、を考えながら接していた結果、出た言葉がこの言葉だったのだと思う。若い人の方が偉いことがある。別なある日、自閉症の人、パニックになって出て行った。若い男子職員が追いかけた。いつまでたっても帰ってこない。二人が1時間くらい立って帰ってきた。携帯にも出なかったことを問うたら、思いっきり走ったら落とした、との答えだった。その利用者さんを見つけた時に、理由を聞くと「走りたい」と言ったので、「じゃ走るか」と、気のすむまで走った。走ることの得意な職員だったため、利用者さんの方がへとへとで帰ってきた。いい支援だなあと思った。

3つ目として、障害者基本法の改正にもあるのだが、意思決定の支援をすること。願いを第一にしなさい、願いをかなえるためにしなさい、と言っている。これまでの支援をよくよく考えてみると、重い人の場合は、意思決定できないと思っていたので、そういう場合は、職員が推測して買い物をしたり、「したいだろうな」で決めていた。もう少し、本人から引き出していこう、そういう支援の仕方を勉強してほしいと言っている。

12 これからの課題

各個人・地域にあったそれぞれの支援体制を整えること、在宅でクラス方々とその家族に向けた支援を展開すること、利用者の高齢化に向き合うことだと考える。「生涯サポート」で問題になるのは最後。どう迎えるのか。支援が介護保険を使う段階だと、老人施設へ行くのが通常である。しかし、(例として)10年前希望の森で担当していたダウンの方が、50歳を過ぎて急にがたと弱くなった。寝たきりになった時には、老人介護と同様の支援となった。老人施設の定数より職員数が少ないので、職員はへとへとだった。職員会議で老人施設に移行してもらおうことが決まったが、当日、本人が大泣きで「ここにいたい」と言った。それから3か月だった。

現在松葉学園に3人、老人の方がいる。松葉学園に居たい、という希望がある。職員に聞いたら、最後まで支援したいというのでそうすることにしている。そういうケースでは職員数を上げてもらったらいのと思う。

13 ノーマライゼーションの詩について(別紙配布済み資料)

「普通ってなんだ？」普通ってなんだろうということを考えてほしい。

ここ(別紙「ノーマライゼーションの詩」)に書いてあることがすべてだと思う。施設は地域の核として、事業などを考えたり生み出したりしていく役割があると常々思っている。サポーターの養成も施設がすべき。しかし、規模の大きな施設はまだまだあるので、グループホームくらいの単位にしてほしい。グループホームに出ると、施設に帰りたくない、と皆言う。

そして、やはり恋したい。男と女を、2か所のグループホームで一緒にしている。県から指導があったが、一番うまくいっている。なぜか、女だけのグループはうまくいかないことが多く、メンバーチェンジが何度もある。男と女がいる、というのが普通のことであると思う。

14 年金について

二十歳になったら障害年金をもらう。それで、だいたいの福祉サービスは受けられるので、例えば入所で5万くらいの経費はかかっているが、(保護者さんの)負担金はほとんどゼロである。しかし、「やりたいことをする」ようにすると、やはり経費はその分かかると思う。